

【声明文】「レプリコンワクチンに対する懸念と提言」

2023年11月、日本は新型コロナウイルスに対する新しい mRNA ワクチン「レプリコンワクチン」を世界で初めて承認しましたが、他国では安全性について慎重な評価が行われている段階であり、日本以外の国では未だ承認されていません。この「自己増殖型（レプリコン）」ワクチンは、投与後に体内で成分が増える仕組みを持ち、新型コロナウイルス感染症の予防を目的とした最新技術を用いたものとされています。

しかし、現在の科学的評価に基づく、いくつかの重要な懸念が浮かび上がっています。レプリコンワクチンは従来のワクチンに比べて少量の接種で済むため、副反応が少ないとされています。しかし、mRNA の自己増幅やスパイクタンパクの産生がどの程度で停止するのかは十分に解明されていません。そのため、開発国や先行治験国でも認可されていません。また、レプリコンワクチンが自己複製するため、接種者から非接種者に感染（シェディング）し、ワクチンの成分が取り込まれる可能性が懸念されています。これにより、シェディングによる健康被害が非接種者にも発生するリスクも予想されます。

さらに、厚生労働省 HP（疾病・障害認定審査会）が公表している既存の mRNA ワクチンの健康被害データによれば、接種後にアナフィラキシーショックや心筋炎、血栓症などの重篤な副反応が多数報告されています。2021年2月から2024年8月30日の期間で、新型コロナワクチンによる健康被害が7,994件認定され、その中で777件の死亡が認定されています。

このような背景から、私たち大本・人類愛善会では「レプリコンワクチン」による接種が開始されることに強い危機感を持っています。人間の体は本来、生まれながらに持つ自然免疫によって、さまざまな病気に打ち勝つ能力を備えていると考えています。そのため、免疫力を高めるためには、経験的に知られている方法や、正しい食生活、適度な運動、十分な睡眠を心がけることが重要です。私たちは、安全性が確保されていない医薬品は体内に取り入れず、自分の体は自分で守るという強い信念を持つことが大切なことではないでしょうか。

私たち大本・人類愛善会では、政府および関係機関がレプリコンワクチンの導入に関するさまざまな懸念について慎重に再評価し、一般市民にも科学的根拠に基づいた情報を迅速に提供するべきだと考えます。

一人ひとりが正しい知識をもって健康を守る社会となりますことを願っています。

令和6年9月5日

大本・人類愛善会